

人間のエゴ…持ち込まれる犬や猫

小松市安宅海岸の防風林に、動物の鳴き声が絶えない場所がある。県内各地から、捨てられた犬や猫が集められる県南部小動物管理指導センターだ。消えゆく小さな命と、それを救おうとする人たちがいた。

(小松支局・赤川肇、白名正和)

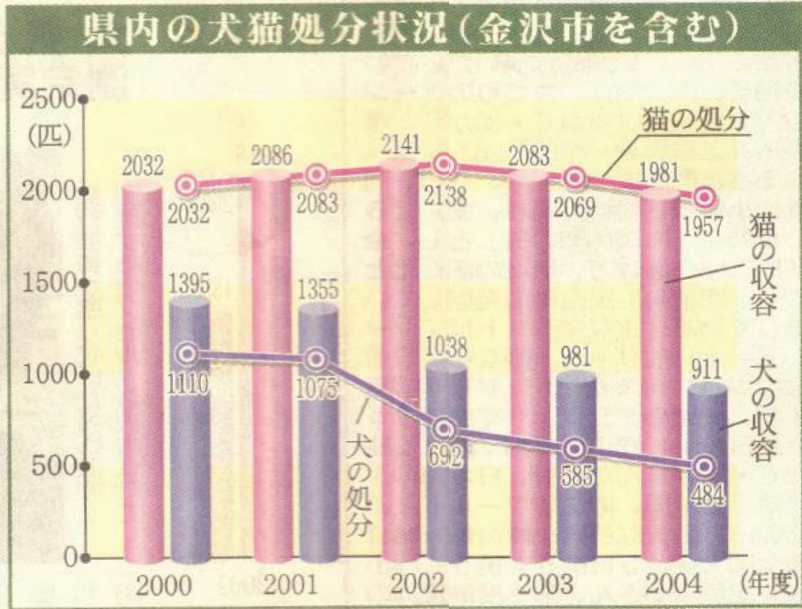


行き場を失った動物が集まってくる。小松市日末町の県南部小動物管理指導センターで

救う道きつとあるはず

小松の04年度1714匹処分

同センターは「保護」とやや多い。中核市の金沢市「引き取り」に分けて動物は自前の施設(市小動物管理センター)を持っており、小松のセンターには金沢市以外の県内全域から持ち込まれる。引き取りは飼主が持ち込むペットが大半だ。数は引き取りの方がど



四月朔日(わたぬぎ)直行所長(金)は「捨てられる理由は転居など住環境の変化、家族の病気、あとは人間のわがまま」とやり切れぬ表情。引越しが多い春先が特に多い。誰かに譲れないか尋ねるが、ほとんどは首を横に振るといふ。「それ以上強くは言えませんが」と唇をかむ。

一匹でも生かすため、引き取り希望者に子犬を譲り渡す。でも誰にでも譲るわけではない。犬の健康管理やしつけ方を知ってもらい、飼育環境も確かめる。「かわいいぞ」という感情だけでなく、飼育続ける能力を見極めるのだ。「再び不幸にたくない。一匹でも多く、幸せになれるよう

「自分がやるしか」金沢の女性、飼い主探し奔走



池田さんらはセンターで選んだ犬を車に乗せた。小松市日末町で

祈るだけです」。四月朔日所長が全職員の違いを代弁した。

金沢市のヘルパー池田裕美子さん(30)は毎週、処分前日にセンターから犬を助け出し、新しい飼い主を探す活動を続けている。三年前、人間の都合で犬が処分されていく事態を知り「自分がやるしかない」と一人でセンターに通い始めた。今では三十一五十人の支援者に支えられるようになった。散歩や運搬を手伝う愛犬家、格安で引き受けてくれるトリマーや獣医師たちだ。救える命は徐々に増えてきた。成犬を中心に、これまで三百八十近い命を救ってきた。

ある日、池田さんらボランティアの女性三人がセンターで、黒毛の大型犬をラゴン車内のおりに招き入れた。初対面の三人にじやれつ二歳の雄犬。飼い主が保健所に持ち込んだという。翌朝には処分されるところだった。

持ち帰る犬は多いときで十頭を超える。自宅の犬舎には限りがあり、ペットとして扱いやすいかどうかで選びたい。人の命を救う

池田さんのホームページは、http://www.geocities.jp/kantata104_98/

慣れ具合、かみつき癖がないかどうかなどがチェックされる。

いやな選択だと、池田さんを手伝う加賀市の主婦中道里美さん(30)は言う。「処分の朝、残してきた子(犬)を思つと胸が痛む。自分で殺せないから他人に委ねるなんて、(ペットを)やり場のない怒りに語気を強めた。

黒毛の雑種犬は、トリマにシャンプーしてもらい、動物病院で一通りの検査を受けた後、池田さん宅の犬舎で七頭の輪に加わった。多くは一二月の間、新しい飼い主の手に渡す。一カ月程度の試行期間を設け、問題があれば返す。救える命は徐々に増えてきた。成犬を中心に、これまで三百八十近い命を救ってきた。



「助かる命があれば、私の苦勞なんて大したことはない」と話す池田さん。金沢市の自宅

不妊・去勢手術 犬は1990円だったが、以降2度にわたる1年、猫は92年から県見直しで、それぞれ4000円、2000円に減額された。県は「財政上の理由」(薬事衛生課)と説明する。